

# エンタープライズ2.0の可能性と 具体的事例

～エンタープライズ2.0の技術の中で注目すべき技術～

日本電気株式会社  
市場開発推進本部  
ニューITエバンジェリスト 林 雄代  
2007年11月19日



Enterprise2.0

## Enterprise 2.0とは

Web 2.0のモデル/技術を企業内に適用し、社内外の膨大な情報を活用し企業力を高めるもの

Andrew McAfee

ブログやWikiに代表されるWeb 2.0のテクノロジーを企業内のナレッジマネジメントツールとして利用すること

ハーバードビジネススクール准教授。Enterprise2.0を最初に提唱

Socialtext CEO Ross Mayfield

Enterprise 2.0は、Web 2.0のようにユーザ参加型で何かを作り上げるといふ点は同じだが、ビジネス用途に使われるものを作っていく

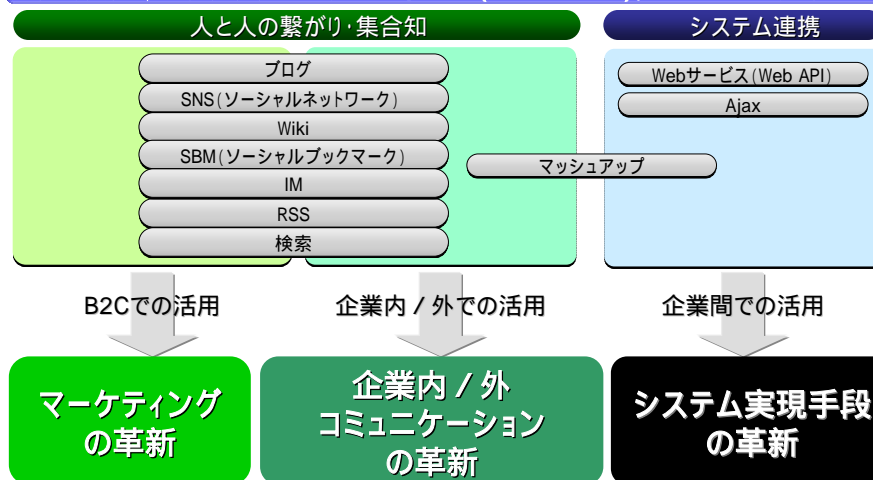
U can change.

Copyright(C) NEC corporation 2007

3

## 企業におけるWeb 2.0の活用

コンシューマから始まったWeb 2.0関連技術が、企業内や企業間連携のシステムに浸透・拡大。  
適用領域は、人と人の繋がり・集合知(企業内/外)、システム連携



U can change.

Copyright(C) NEC corporation 2007

4

## 企業内でのブログ、SNS、Wiki活用について

1. ブログ(連絡・通知したい情報の発信・共有)
  - 時系列に情報が蓄積され「状態」、「経緯」の可視化ができる
  - コメント、トラックバック機能によりオープンなコミュニティを形成
2. SNS(社内コミュニケーションの活性化)
  - 「人との関係」の可視化や公開範囲の制限が行える
  - 組織を超えた議論と人間関係形成、「人中心」の展開及び
  - 普段言わない発想「自我の拡張」の共有などの発展性
3. Wiki(情報の蓄積・共有)
  - ウェブブラウザからページの作成・編集ができるウェブツール
  - 時系列ではなく版管理型であり、共同での編集・削除の管理が自由



経営的な視点から社員間の関係づくり、ワークスタイル、組織像など自社のポリシーを明確にして利用することが求められる

## ブログ(SNS)の特徴

コミュニケーションの場を簡単に提供



- ・「投稿 返信 返信・・・」というように時系列に一覧で情報が蓄積される
- ・Web上に全て情報が蓄積される

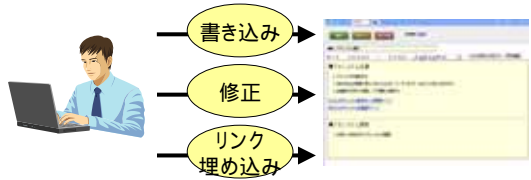
頻繁に更新されるホームページの作成が容易



- ・ホームページの更新が行いやすい(コード不要 誰でも更新)
- ・更新したものをすぐに公開できる

## Wikiの特徴

文章化の段階で利用しやすい



情報を集約しやすい

複数の人が共同で文書作成しやすい



常に現状(作業中の状況)が見られる!

U can change.

Copyright(C) NEC corporation 2007

7

社内事例

U can change.

Copyright(C) NEC corporation 2007

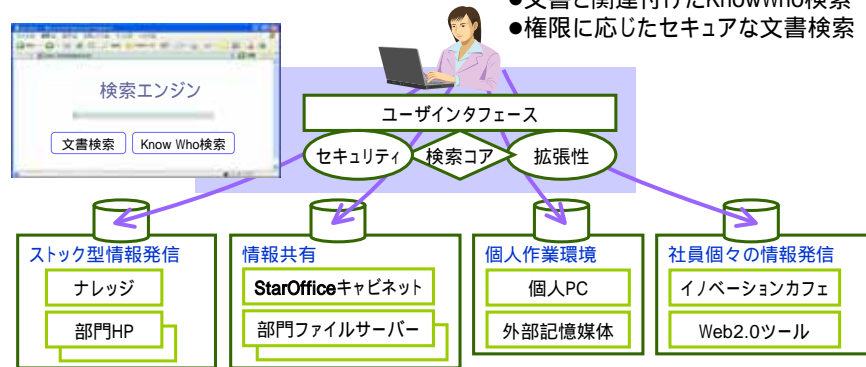
8

## 事例1:社員参加型開発

情報保護を維持しつつ、その有効活用を促すために、  
企業内に散在する様々な情報の横断検索を実現するサービス

検索エンジンが目指す検索サービス

- 必要な文書の一発検索
- 文書と関連付けたKnowWho検索
- 権限に応じたセキュアな文書検索



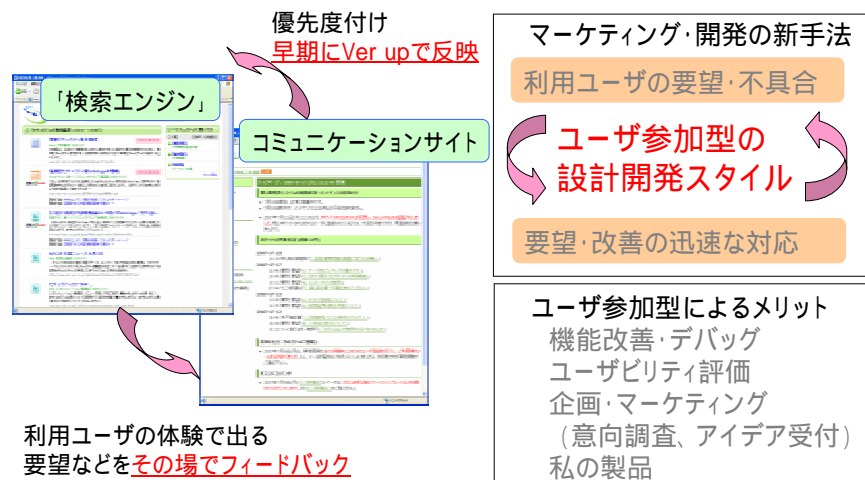
U can change.

Copyright(C) NEC corporation 2007

9

## Wiki利用による社員参加型の新開発スタイル

Wikiを使ったコミュニケーションサイトを立ち上げ、社員600名で評価  
利用ユーザの体験から出る意見を収集し、企画・製品化に反映



U can change.

Copyright(C) NEC corporation 2007

10

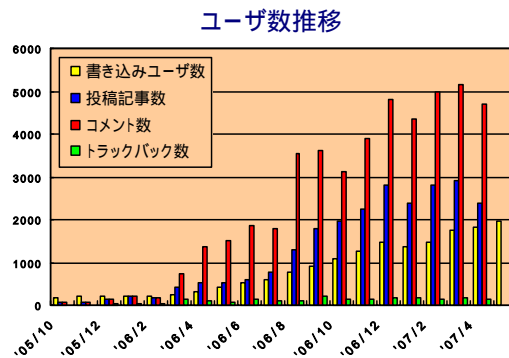
## 事例2 : NECでの社内ブログサービス (イノベーションカフェ)

概要: NECグループ内での、ブログ・SNS関連技術の全社ブログ  
 導入目的: 情報収集、日々の課題解決、情報発信  
 効果: 役員からの情報発信、集団の知恵を反映させて問題解決、組織全体の情報収集高速化

主なコミュニティ  
 Mashroom  
 マッシュアップについての議論・情報共有  
 イノベディア  
 イントラ版Wikipedia

参加者  
 全社員(特定グループ会社まで)  
 閲覧者数: 約1万人  
 1日のアクセスユーザ: 約700人  
 1日の情報発信量:  
 記事投稿: 150件  
 コメント記入: 300件

今後の予定  
 携帯電話(900iL)での利用を検討中



U can change.

Copyright(C) NEC corporation 2007

11

## 失敗事例

- 今流行っているからやってみようという場当たりの対応
- 増えた情報をさばく仕組みや、**成果につなげる仕組みが欠如**
- 個人日記など発信型のコミュニケーションが主体で、**個人のモチベーションに依存していた 陳腐化**
- 個人日記などの発信により、**情報統制がとれなくなった**
- 既存システムとの共存で、逆に**社員の負荷が増大した**

導入効果を出すためには、  
 Web2.0ツールの本質を理解することが重要！

U can change.

Copyright(C) NEC corporation 2007

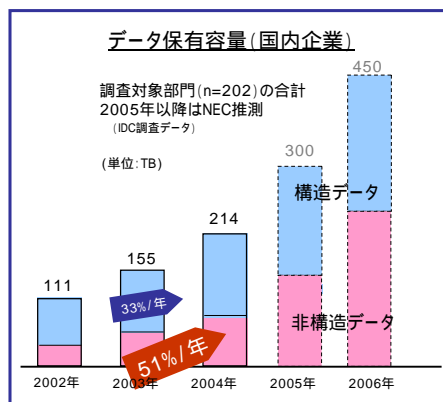
12

## StartOfficeXとEnterprise2.0

### 膨大な量の情報管理は限界

IT化が進む中で急激に増加した多種多様な情報はその膨大な量により利活用が困難に

- 有効な情報や意味の無い情報が混在し、利用効率が上がらない(多数のノイズ情報)



#### 情報の増大による問題

- 必要な情報が見つからない
  - × 単純に検索で探すことが困難
  - × 適切な検索キーワードを指定できない
- 必要な情報に気が付かない
  - × ファイルサーバに登録されても分からない
  - × 最新の状態の情報が分からない
- 情報の整理ができない
  - × 1対1で整理できない
  - × 後から見つけることができない

## 増加し続けるメールの流通量

コミュニケーションや情報交換の手段として利用されるメール量は日常の業務を圧迫

【メール流通量の状況】：送受信数

	利用者数	一日当たりの平均メール数	一人当たりの一日の平均メール数	ファイルの添付率	出典
米国	-	-	133通	25%	US Radicati Research
国内	-	-	103通	23%	Gartner ITデマンド
部長	-	-	122通	26%	弊社調査
マネージャ	-	-	294通	20%	弊社調査
A社	2,000人	10,000通	5通	-	弊社調査
B社	2,000人	100,000通	50通	-	弊社調査
C社	30,000人	700,000通	23通	-	弊社調査
D社	140,000人	5,000,000通	36通	-	弊社調査

294件の内訳 受信:269通 送信:25通  
圧倒的に受信が多い  
2時間強(30秒/件)

24個のファイルが送付されている

U can change.

Copyright(C) NEC corporation 2007

15

## 社員は複数システムを繋ぐ糊？

複数の業務システムを利用して1つの作業を実施

例. 出張時は交通機関や宿泊施設の予約、料金確認など複数の手順が必要



U can change.

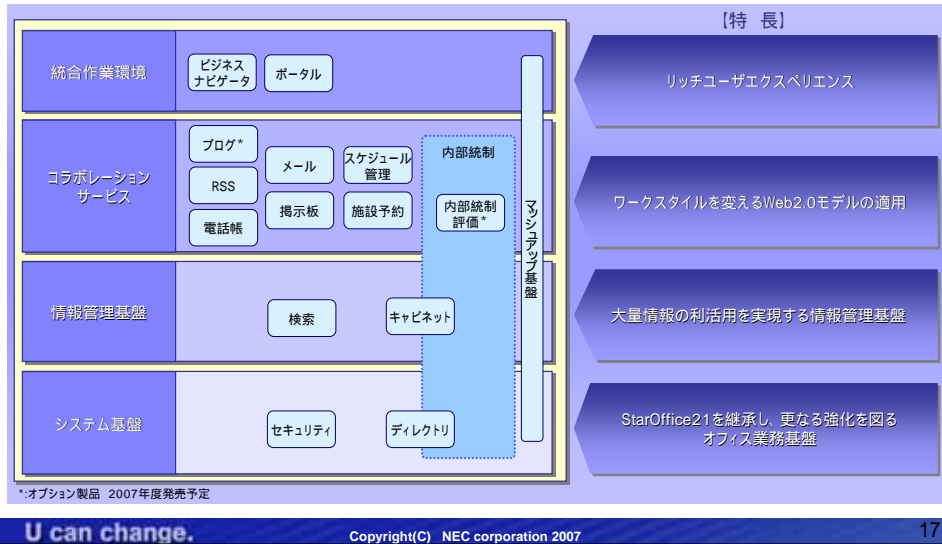
Copyright(C) NEC corporation 2007

16



## StarOffice Xシリーズの提供機能

個人の統合作業環境から企業としての内部統制支援までビジネスに効果的なコラボレーション環境を提供



## 様々なコラボレーションツール

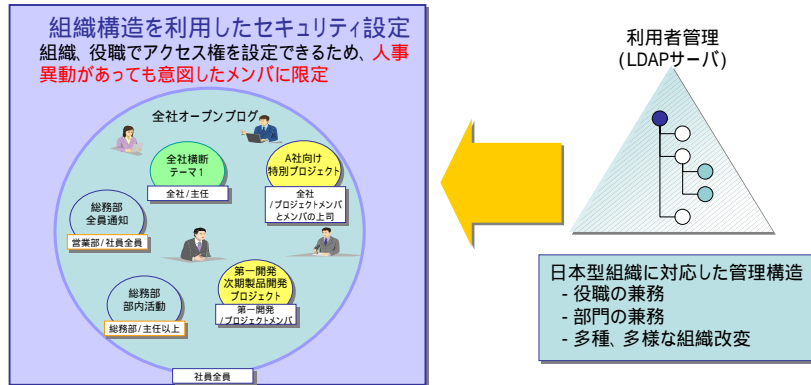
ブロードバンド、コラボレーション技術の進化により、時間と場所を制限しないツールが多数存在



## StarOfficeが提供するブログ機能

SNSとブログの特徴を統合し、企業利用に適したシンプルで  
 確実なアクセス制御を実現

- 統制された中でも個人が自由に情報発信、議論できる場
- オープンコミュニティにより組織の壁を越え、特定コミュニティで議論をより細かく



## マッシュアップによるサービス統合

複数のシステムを組み合わせる新しい価値を生み出す  
 Web2.0の特長的なモデル

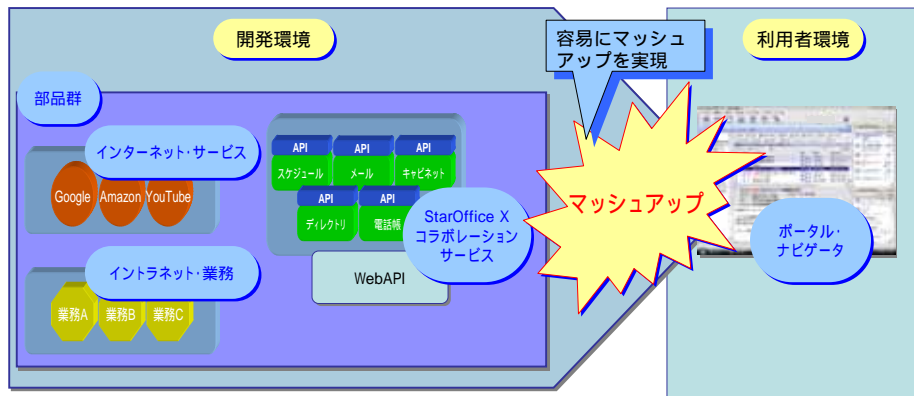
- インターネット上の魅力的なサービスや、企業の基幹システムと組み合わせることで、ユーザビリティの優れた高度なサービスを容易に構築



## StarOffice Xシリーズのマッシュアップ基盤

StarOfficeのサービスや情報をWeb APIを利用して業務システムから容易に利用可能

- システム開発の敷居を下げるWeb APIで業務システムを容易に再構築
- 業務をStarOffice Xナビゲータに組み込みマッシュアップ可能な作業環境を実現



U can change.

Copyright(C) NEC corporation 2007

21

NEC

*Empowered by Innovation*

本講演に関するお問い合わせは  
y-hayashi@cb.jp.nec.com

U can change.

Copyright(C) NEC corporation 2007

22